



発行：“人間と性”教育研究協議会/発行責任者：北山ひと美
〒151-0071 東京都渋谷区本町1-7-16 初台/ハイツ1006号
<https://www.seikyokyo.org> Tel 03 (3379) 7556

視点

ワクワクドキドキがいっぱいの 夏期セミナーin静岡で熱い！暑い！ 夏のひと時を満喫

会報393号で実行委員長の楳原宏一さんから呼びかけられた「ワクワクドキドキのセミナー」を体感していただきましたか？

私自身も広島・鹿児島とオンライン参加だったので、対面参加の良さを改めて実感したセミナーでもありました。懐かしい方にお会いでき、言葉を交わすうれしさも実感しました。また皆様から温かい言葉も数多くいただきました。感謝・感動の2日間でした。

東海大会として、愛知・岐阜・静岡性教協が引き受け、地の利の良い静岡を会場に決定し、現地実行委員会としてZoom会議を繰り返してきたものの、やはり静岡性教協が現地実行委員会としての力を遺憾なく発揮してくださり、無事にセミナーを終えることができました。

性教協の東海3県は、静岡は2回の単独開催に今回の合同で3回目、岐阜は単独開催1回、合同で1回開催して今回で3回目の開催。愛知は1回の合同開催とこのセミナーで2回目の開催となりました。過去の実績はあるものの、メンバーも変わり実行委員として関わるのは初めてという委員もいます。そんな中実力を発揮してくださったのは静岡での過去2回のセミナーに関わっていらしたメンバーとその応援隊でした。本当に心強かったです。

私自身夏期セミナーの実行委員として東海地区で関わるのは今回で4回目です。開催を終えて実行委員のメンバーで過去のセミナーの話がいっぱい出てきました。振り返ると①開催期間が以前は3日間だったこと。②夜に「この指とまれ」的な学習会が企画され、それにも参加して終わるのが21時過ぎていたこともあったこと。(参加は任意)③「速報」が何十号と発行され、そのための取材班や記事を打つ部隊が

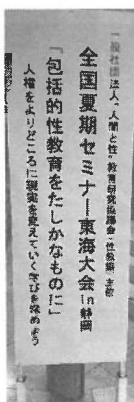
結成され、写真を撮ったり感想を集めたりして、競って号数を発行していたような時もあったこと。本部の部屋には常に輪転機が回っていて、輪転機の音が響いていたということも懐かしく思い出し、次の日にはその速報が会場に並べられていて手に取って読んだ思い出などが懐かしく、思い出話に花が咲きました。

私にとっても、性教協の夏期セミナーは学びとその開催地での観光をセットにした夏の一大イベントでもありました。今年は久しぶりに実行委員をしながら、静岡の観光もセットすることができ、重圧を感じながらも楽しいセミナー期間となりました。欲張って修善寺に泊まって温泉につかり、汗だくで修善寺を歩き回ったこと、少し足を延ばし天城越えのトンネルを歩き、浄蓮の滝の前で「天城越え～」と歌ったこともいい思い出になりました。あと何年、今年のように「学びと観光をセット」にしたセミナーに参加できるだろうと思っています。とりあえず来年の沖縄に思いを馳せています。

参加してくださったお一人お一人にとって夏期セミナー東海大会が「ワクワクドキドキ」なセミナーになっていたことを願ってやみません。セミナーの基調報告、記念講演、理論講座、シンポジウム、分科会・模擬授業の一つ一つが大会テーマである「包括的性教育をたしかなもの」につながっていくことを期待しています。セミナーを終えた今、セミナーで得た学びが広がっていくワクワクドキドキ感でいっぱいです。



夏期セミナー現地実行委員
前列左から2人目が塚原さん



夏期セミナー看板

塚原百合香

(性教協全国夏期セミナー東海大会in静岡現地実行委員長)